

# ガザの暴力連鎖停止を



「パレスチナ平和を」のメッセージカード掲げてスタンディング市民。11日夕、社通帳印刷前

## 戦場への危惧 沖縄

イスラエル軍による空爆が続くパレスチナ自治区ガザ地区で、子どもたちも多くの犠牲者を出していることに対し、市民有志が19日、那覇市の県民広場で集まって「パレスチナに平和を」のサインダンスに取組み、即時停戦と武力による平和を訴え、暴力の連鎖を止めようと呼びかけました。

沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガマフヤン」代表の奥志義松さんは「自衛隊に起因する武力衝突発生

の恐れも危惧される中、国際社会に「沖縄を戦場にさせないで」と訴えてきたと指摘。

「現に戦場になってしまったパレスチナに向け、沖縄の地から私たちが『暴力をすくやめてください』と声を上げるべきだと思えます」と訴えました。

サインダンスは沖縄平和市民連絡会の北上田毅さんが呼びかけ、30人以上が参加。SNSの告知を見て訪れた男性（51）は「那覇市には『暴力を断つ』を訴えたい何か行動したい」と話しました。



「戦争あかん」とアピールするデモ参加者。19日、大阪市西淀川区

## 戦争あかん！ 大阪

大阪市の「戦争あかん！ 西淀川実行委員会」は19日夕に同区内で、ガザ侵攻に抗議し、パレスチナの平和を求めるとともに、岸田内閣が推し進める「大規模・大増税」に反対する集会和デモ行進をした。

集会では、門谷亮実行委員長がパレスチナの状況や岸田内閣の支持率低下と大規模の姿勢に触れ、「今この瞬間も多くの子どもたちが犠牲になっていく。今こそ『戦争あかん！』の声を大きな世論にしていこう」と呼びかけました。

同席からは、ウクライナ戦争で不安がる子どもにも「憲法があるから日本は大丈夫」と話したことに触れ、「子どもを守るためにも『戦争あかん』の声を上げていきたい」と語りました。